



日本形成外科手術手技学会

News Letter

第14号 2019年4月18日発行
発行 日本形成外科手術手技学会 事務局
〒169-0072 東京都新宿区大久保 2-4-12
新宿ラムダックスビル (株)春恒社内
TEL: 03-5291-6231
FAX: 03-5291-2176

— 目次 —

- * 理事長からのご挨拶
- * 第24回 日本形成外科手術手技学会 報告
- * 第25回 日本形成外科手術手技学会 お知らせ

理事長からのご挨拶

日本形成外科手術手技学会
理事長 上田 晃一

本年の2月23日にパシフィコ横浜にて、横浜市立大学形成外科学の前川二郎会長のもとで、第24回日本形成外科手術手技学会が開催されました。症例検討のセッションではとても興味深い症例が提示され、内容の濃いディスカッションが交わされました。

またビデオシンポジウムのセッションが3つあり、各演者の手術手技の動画が詳細に示されて、素晴らしい内容のものでした。また山好きの会長が選ばれた関野吉晴先生の特別講演「グレートジャーニーと健康と医療」は感動のご講演でした。

さて本学会は「形成外科内視鏡手術手技研究会」という名称で1996年に開催され、その後いくつかの名前の変遷を経た後、学会に昇格して、間もなく四半世紀になろうとしています。

今回は北海道大学の山本有平会長のもとで第62回日本形成外科学会総会が開催されますが、その中の特別プログラム「関連領域学会～沿革&コアシンポジウム」に、われわれの学会も参加予定となっております。

現在、企画委員会の梶川明義委員長が中心となって学会の沿革や活動、過去の発表について検討中であります。その作業の途中で、先人が本学会を発展させ、盛会にしようと努力と改革をなされてきた営みの数々を知りました。

それについてはそのシンポジウムで発表予定ではありますが、われわれもその先人の努力に報いるように、本学会の活性化、発展、若手医師の入会の増加について引き続き努力していきたいと考えておりますので、みなさまのご指導、ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。

2019年3月末日

第24回 日本形成外科手術手技学会 報告

会長 前川二郎（横浜市立大学医学部形成外科学）

本年2月23日（土曜日）、横浜みなとみらいのパシフィコ横浜で第24回日本形成外科手術手技学会を開催させて頂きました。幸い天気にも恵まれ、多くの方に参加して頂きました。参加者はスタッフを合わせて370名ほどに達し、会場内では多くの熱いディスカッションがなされていました。この様な会を主催できたこと、学会員の皆様に深く感謝申し上げます。

さて、今回のテーマである、「和の手術手技」ですが、日本的な匠の「和」の手術手技と、協調性が必要なチームの「和」としての手術手技について様々な施設の特徴的な手術手技を討論することを考えました。

ビデオシンポジウムの小耳症手術では肋軟骨採取、また頭頸部再建では皮弁採取、皮弁のセッティング、血管吻合など、チームワークが良い施設の手術手技を見ることができました。さらに、パネルディスカッションとして唇顎口蓋裂手術に必要な術前顎矯正に関して形成外科、矯正歯科の視点から討論頂き、チーム医療の重要性を改めて認識することができました。

本学会の特徴である手術手技について、ビデオで分かりやすく解説するビデオシンポジウムを小児、再建マイクロ、ブレストの3つの分野について行い、具体的な手術のポイントを示して頂きました。

日本医科大学の村上先生には教育講演として、眼瞼の形成外科手術において形成外科医に必要な眼科的な評価を中心にご講演頂き、大変勉強になりました。さらに、症例検討では難しい症例の治療方針について貴重な意見を頂くことができ、スポンサーシンポジウムなどではレーザーを使った治療について理解を深めることができたと思います。

特別講演として、横浜市大出身の医師で探検家の関野吉晴先生に、「グレートジャーニーと健康と医療」と題してホモサピエンスが辿ったアフリカ大陸から南米最南端への拡散の旅を南米から遡った旅の経験と南米を中心とした原住民との生活など貴重な経験を医師としての視点からお話し頂き、山登りが趣味である私自身、大変興味ある講演でした。

最後に一日だけの学会でしたが、本学会を無事、成功裏に終えることができたこと、学会関係の皆様、サポートを頂いた企業の方、同門会、教室関係の皆様に厚く御礼申し上げます。

第 25 回日本形成外科手術手技学会 お知らせ

会長 深水秀一（浜松医科大学医学部附属病院形成外科）

このたび、第25回日本形成外科手術手技学会を浜松医科大学形成外科学教室が担当させて頂くことになり、大変光栄に存じますとともに、会員の皆様に心より御礼申し上げます。

会期は2020年2月8日(土)、会場はアクトシティ浜松コンgresセンターにて開催します。JR浜松駅に隣接する便利な場所です。本学会のテーマは、「ART and TECHNOLOGY」としました。ARTには「芸術、美術」という意味の他に「技、技巧」という意味がありますが、いずれにしても熟練した技術を示す言葉です。加えて、形成外科手術における「クリエイティブな感性」を強く意識しています。一方、TECHNOLOGYは特定の分野における知識の実用化や科学的知識を用いて開発された機械類や道具類を指す用語を意味します。形成外科の手術手技におきましては、まさにARTとTECHNOLOGYの融合が重要と考え、この二つの要素がかみ合い、手術手技が一步前進する学会となることを期待しております。

特別講演は、物理学者で評論家の志村史夫先生にお願いしました。「人間と科学・技術」「古代日本の超技術」「一流の研究者に求められる資質」など、日本の伝統技術や道具の発達に造詣が深い先生です。今回は、「IT、AI時代にいかに生きるか」というお話も一緒にご講演いただく予定です。そのほかにもビデオシンポジウムやハンズオンなど、会員の皆様が日常診療ですぐに役立つような内容の企画を考えています。何よりも多くの皆様に参加していただき、活発な発表や討論が行われるような学術集会を目指しております。

浜松は楽器やオートバイをはじめとする製造業から始まり、現在では光を利用した高度な産業が発展している町です。その根底に流れるのは「やらまいか（やってみよう）精神」です。この地で皆様の型破りな発想をご発表頂ければと思います。また、浜松には浜名湖などの観光スポットも多く、海の幸も豊富にあります。是非とも多くの皆様にご参加頂けるようお願い申し上げます。

私どもの教室は若いスタッフが多く、何かと行き届かないことがあるかもしれませんが、参加して良かったと思って頂けるような学術集会となりますように教室員一同準備を進めて参ります。多数のご参加を心よりお待ちしております。

次年度以降の学会開催について

第 26 回日本形成外科手術手技学会

第 27 回日本形成外科手術手技学会

会 長：岡崎 睦（東京大学形成外科）

会 長：三川 信之（千葉大学医学部形成外科）

日 程：2021年2月5-6日（金曜午後～土曜）

日 程：2022年

開催地：一橋大学一橋講堂（東京都千代田区）

開催地：千葉